

地域活性化伝道師プロフィール		分野	地域産業・イノベーション・農商工連携		農・林・水産業		
			地域医療、福祉・介護、教育	○	観光・交流		
			地域コミュニティ・集落再生	◎	環境		
			地域交通・情報通信	○	まちづくり	◎	
ふりがな		はらだ ひろかず					
氏名		原田 博一					
所属	名称	株式会社イミカ					
	役職	代表取締役					
連絡	住所	(非公開)	〒 -				
		-				-	
	連絡先	(公開)	E-mail hirokazu,hrd[アットマーク]gmail.com				
		(非公開)	TEL -		FAX -		
連絡方法		E-Mailでお願いします					
略歴		<経歴> 1999 年富士通入社、2007 年より富士通研究所、2017 年より現職。ソフトウェアエンジニアを経て、インタビューやフィールドワーク、ワークショップなどの定性調査手法の研究開発や実践、教育に従事。コミュニケーションの観点から、地域や組織・個人の主体的な変化の伴走支援（プロセス・コンサルテーション）を得意としています。 <役職等> ・鳥取県「鳥取県×日本財団共同プロジェクト」アドバイザー(2017、2018) ・一般社団法人サイクル・リビングラボ理事(2018～) ・復興庁「地域づくりハンズオン支援事業」専門家(2018、2019) ・鳥取県「共助交通を通じた地域人材育成の普及協議会」アドバイザー(2019) ・鳥取県「住民主体による共助交通の取組モデル事業」アドバイザー(2020) ・鳥取県「住民主体による共助の体制づくり事業」アドバイザー(2021) ・鳥取県「とっとり研志塾」講師兼トータルコーディネーター(2022～) ・一般社団法人陸上競技ネットワーク理事(2021～) ・NPO 法人あしたのカーシェア理事(2023～) ・認定 NPO 法人ハーモニカレッジ理事(2023～) <受賞歴> HCD-Net Award 2019 優秀賞「アクティブワーキング」(2019)					
著作・論文等		・共助交通マニュアル「ビタミン」（鳥取県×日本財団共同プロジェクト 2020） ・社会的課題におけるマルチステークホルダーによる共創プロセス：認知症プロジェクトを例として（サービス学会 2018） ・イノベーションアーキテクチャ(IA)からみる認知症を取り巻く社会課題への取組みの構造（研究・イノベーション学会 2015） ・まちづくりイノベーション HUB まちばた.net（技術情報誌富士通 特集 イノベーションデザ					

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。

	イン 2013) ・間主観的な上流コンサルテーションの方法論（経営情報学会 全国研		
取組概要	総じて、地域特性に応じた住民主体の予防自治活動を、ファシリテーターとして伴走支援しています。 ・2017 年 鳥取県「鳥取県×日本財団共同プロジェクト(以下、共同プロジェクト)」外部アドバイザーとして、地域住民の話し合いのファシリテートや、地域づくり人材育成講座「研志塾」を設計・実施 ・2017 年 鳥取県日南町多里地区の小さな拠点形成にむけた住民同士の話し合いをファシリテート ・2018 年 「共同プロジェクト」外部アドバイザーとして、地域づくりに関わる個人や団体の個別相談役を担当 ・2019 年 鳥取県「共助交通を通じた地域人材育成の普及協議会」アドバイザーとして、住民共助による移動支援の仕組みづくりの研修や、立ち上げに向けた伴走支援を行う ・2020 年 鳥取県「住民主体による共助交通の取組モデル事業」アドバイザーとして、2019 年度活動を継続 ・2020 年 鳥取県日南町内の各地域づくり協議会の 5 ヶ年計画の更新支援を行う ・2020 年 鳥取県大山町「大山地区の地域医療を考える会」アドバイザーとして、医師と住民との話し合いをファシリテート ・2021 年～ 鳥取県「住民主体による共助の仕組みづくり事業」アドバイザーとして、2020 年度活動を共助全般に広げて継続中 ・2022 年～ 鳥取県「とっとり研志塾」の講師兼トータルコーディネーターとして、多世代の地域づくり人材育成や関係構築を行う ・2022 年～ (一社)京都府北部地域連携都市圏振興社(通称:海の京都 DMO)にて、デジタルマーケティング業務支援を行う		
メッセージ	従前の自治活動は、「維持や安定」を目的としたルール作りや合意形成が重視される傾向が強く、「変化や創造」を目的とした活動を苦手とすることが多いです。 そこで地域づくりを、事業開発(何を)と関係構築(誰と)の観点で捉え、前者では、「できることから始めて少しずつ育てる」ことを、後者では、「ものの見方や参加意識のフェーズが個々に異なることを前提として住民を巻き込む」ことを重視しています。 またその際、特定の領域に精通した知識や能力を持った専門家支援(コンテンツ・コンサルティング)ではなく、当事者の想いや都合を踏まえて状況を進展させる伴走支援(プロセス・コンサルティング)を行い、無理なく楽しみながら地域の持続性や自律性が高まることを大切にしています。 加えて、特に地域課題解決においては、既存の構造を変える(システム・チェンジ)よりも、新たな構造を作って徐々に移行する進め方(システム・マイグレーション)を重視しています。		
関連ホームページ	-	活動エリア	全国

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。